

# 令和2年度 唐津市立馬渡小中学校 校内研究計画

## 1 研究主題

研究主題：主体的・対話的で深い学びのある授業の創造  
～単元を貫く問いの設定を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) はじめに

今年度から、2030年に生きる子どもたちに必要とされる力を育むための新学習指導要領が小学校で全面実施される。新学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指している。

これらの資質・能力を育むために、新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の視点からの授業改善を重要視している。「主体的・対話的で深い学び」については、平成28年12月に出示された中教審答申(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」)において、3つの視点に立った授業改善が示されている。

- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

また、平成29年告示の小(中)学校学習指導要領解説総則編において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める際の指導上の配慮事項として、次のようなことが示されている。

1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

以上のことを踏まえ、求められる授業を創造する必要がある。

### (2) 児童生徒の実態

本校は少人数(2020年4月1日現在23名)の小中併設校であり、授業規模も極少人数(最少1名)で行う学年、教科もある。そのため、授業中に発言を求められることが多い。また、異年齢の児童生徒の交流活動が多く、その際、他者の前で自分の考えや感想を述べる機会も多い。

しかし、発言内容が論理的でなかったり、わかりにくかったりすることもある。また、自ら主体的に問い(課題・問題)をもったり、それを自律的に探究していく力も不足したりしている。このように、本校の児童生徒は、思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ力に課題を抱えている。

### (3) 過去の研究

過去3年間の校内研究では以下3つの取り組みを行ってきた。

#### ① あいタイム

教科・領域における思考力、判断力、表現力を育むことを目的とした言語活動の時間。

## ② チャレンジレベル

児童生徒が自身の活動を自己評価するために授業のめあての到達基準を4つに細分化したものの。

## ③ 読解力=6つのリーディングスキル(新井紀子著『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』より)

リーディングスキル向上を目指した研究では、多くの教師が懐疑的な視点を持ちながら授業を創ることの大切さを実感した。教師側が「このくらい分かっているだろう」「このくらい読めているだろう」と思って授業を創ると、「この言葉の意味が分からないかもしれない」「問題を読み解くことができていないかもしれない」という視点に立って授業を創るのでは、児童生徒の理解に大きな差が生じることが分かった。

## (4) 主題設定の理由

今年度は、昨年度までの研究成果を継承しつつ、新学習指導要領が求めている主体的・対話的で深い学びにつながる授業の創造に軸足を置き、(2)で述べた思考力・判断力・表現力や主体的に学びに向かう力における本校の課題を克服していく。

また、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で全ての学びを実現するために、「単元を貫く問い」を設定し、児童生徒が主体的・対話的にその「問い」を考える単元構成を設定する。

「単元を貫く問い」を設定することで、児童生徒は単元を通して「何のために学ぶのか」という学ぶ意義をもつことができる。「問い」が魅力的ならば、児童生徒は自然に探究を始め、主体的な学びを進めていく。また、「問い」に対して一人では答えを出したり解決したりできなければ、他者との協働、対話が必要になり、さらに、習得した知識及び技能を、各教科等の見方・考え方を働かせながら統合的・横断的に応用することも必要になる。

単元を通して「問い」と向き合ったり考えたり探求したりし、一人では難しい「問い」の解決に向けて、他者との協働、対話する。そして、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせたり、習得した知識を相互に関連付けてより深く理解したりしながら、解決策を考え、自分なりの「最適解」を導いていく。このような授業構成を創造することは、主体的・対話的で深い学びにつながると考える。

そこで、本研究では「単元を貫く問い」を中心に据えた授業を創造していくために、研究主題「主体的・対話的で深い学びのある授業創りの工夫」、副題「単元を貫く問いの設定を通して」を設定した。

## 3 研究の目的

- ・ 児童生徒に学ぶ意欲をもたせ、主体的に学ばせる。
- ・ 未知の問題にも既知の知識及び技能を活用し、考察または解決できる力を育む。
- ・ 児童生徒が主体的・対話的に学べるような「単元を貫く問い」(教科の本質に迫る「問い」)を教師側が創造し、教師の教材研究を深める。

## 4 研究の仮説

小中学校の各学年、各教科等において、単元ごとに「単元を貫く問い」を設定して授業構成を創造することで、児童生徒が主体的に学び、対話的に考察・解決し、自分なりの最適解を導き出す深い学びを実現することができるであろう。

## 5 研究の内容

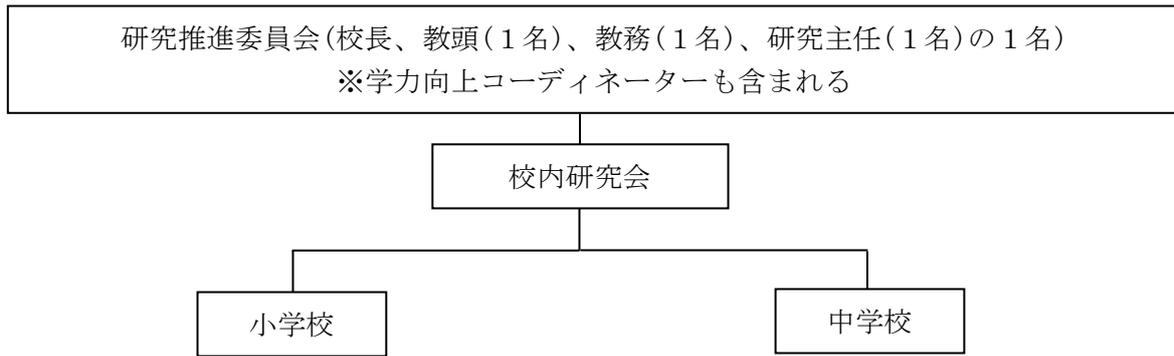
全教師が、「単元で授業を創る」ということを強く意識して授業創りを行う。その際、「単元を貫く問い」を設定し、児童生徒が主体的・対話的に活動できることを目指す。

中学校では、各教科担当が、「単元を貫く問い」を設定して授業を行う。

小学校では、国語、算数、理科、社会の中から各教師が1つの教科を選択し、その教科について研究を行う。

また、各教師が年間1回の公開授業を行う。さらに、毎月の校内研究で「学力向上対策シート」を基にふり返り、全教員で取り組むことや自分の取り組み内容を確認する。

## 6 研究の組織



今年度は、例年のように部会を分けずに、全員が「単元で授業を創る」ということを意識して、校内研究に取り組む。

## 7 年間計画

	校内研修の内容	公開授業の人数	
		小	中
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の概要説明、確認</li> <li>・公開授業の計画決定</li> </ul>	0	0
5月		0	0
6月	<u>全体研修会(代表授業)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後鑑会(全体)</li> <li>・指導案検討(小中別)</li> <li>・授業後鑑会(小中別)</li> </ul>	2	1
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後鑑会(小中別)</li> <li>・1学期の成果と課題(児童生徒・教師アンケート)</li> </ul>	0	1
8月	<u>全体研修会</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「評価の方法」について</li> <li>・1学期の成果と課題の確認</li> </ul>	0	0
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討(小中別)</li> <li>・授業作りでの疑問や提案</li> </ul>	0	1
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討(小中別)</li> <li>・授業後鑑会(小中別)</li> <li>・授業作りでの疑問や提案</li> </ul>	1	1
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討(小中別)</li> <li>・授業後鑑会(小中別)</li> <li>・授業作りでの疑問や提案</li> </ul>	1	1
12月	<u>全体研修会(代表授業)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業作りでの疑問や提案</li> </ul>	0	1
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の気付きや反省(児童生徒・教師アンケート)</li> </ul>	0	0
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の成果と課題の確認</li> <li>・来年度の展望、方向性の確認</li> </ul>	0	0
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の計画</li> </ul>	0	0